

第5期第7回生涯学習センター運営協議会議事要旨

〔日 時〕 2021年1月18日（月） 午後2時～4時

〔場 所〕 町田市生涯学習センター ホール

〔出席者〕 ※敬称略

委 員：陶山慎治（会長）、古里貴士（副会長）、相澤真理、荒井仁、荒井容子、大野浩子、白崎好邦、堂前雅史、西澤正彦、服部くに子、山口隆三、以上11名
（内リモート参加4名）

〔欠席者〕 関村浩

事務局：塩田センター長、田中担当課長、岡田管理係長、高木事業係長、鈴木担当係長、中野担当係長、岩田担当係長、三橋主任

〔傍聴人〕 1名

〔資 料〕 【1】 2020年度下半期事業実績報告

1 報告事項

（1）センター長報告

- ・1月7日に首都圏に緊急事態宣言が発出され、センターでは1月8日から2月7日まで施設の夜間貸出しを中止し、開館時間も午後5時までとした。

この、関係で毎週金曜日夜間に実施していた学習支援事業「学びテラス」は時間を変更して日中に実施方向で調整中です。

- ・本日午前中に第5期生涯学習審議会が開催され、今後の生涯学習センターのあり方について諮問した。これは、第4期で諮問した「今後の町田市生涯学習センターに求められる役割について」で答申された提言に対して、目指すべき姿や効率的・効果的な管理運営手法を様々な視点から検討するために諮問したものです。11月まで計7回会議を開催する。

【会長】私は、この運営協議会を代表して出席した。11月まで議論するので生涯学習審議会での内容をこの会議で伝え、双方向に提供し合いながら検討していく。本日は1回目なのでセンター長がセンターの紹介をした。私からは、運営協議会で検討している具体的内容について報告した。

○東京都公民館連絡協議会報告は会議が1月27日開催予定のためなし

2 議 題

（1）2020年度事業実績報告について（下半期事業を2回に分けて報告の1回目）

○事務局から資料に基づき各担当職員が説明する。

- (1) 公民館事業：「まちチャレ」は6講座実施予定で1講座5回実施。①『発達が気になる子どもの可能性～からだへのアプローチが発達改善の鍵！～』、②『新型コロナに負けるな！外出を地域で支えよう』、③『誰でも一緒に楽しめるスポーツ～パラスポーツ&フラダンスを体験して共生社会を考えよう～』はコロナ対応のため一部中止。④『誰にでも「学びの場」を！～自主夜間中学ってなに？』、⑤『自分に素直にはたらくを考えよう！～子育てしながら、町田で暮しながら、はたらく～』は集合型からオンライン型へ変更予定。『⑥身近な外国人と伝わる日本語でコミュニケーション！』のうち①②を報告。
- (2) ことぶき大学：「健康コース」、「音楽コース」は座学中心の歌わないハミング唱法に変更、「歴史コース」を報告
- (3) 市民大学：「多摩丘陵の自然入門」は通年13回実施だが、上半期は中止し後期のみ8回実施。「まちだのまちとくらしの入門」は部屋の関係で募集人員を減らした。「まちだ市民国際学」は試行として1回目のみリモートで講座開催した。「まちだの福祉」は予定していた施設見学を中止した。他に「人間関係学講座」、「“こころ”と“からだ”の健康学」、「町田の歴史」を報告。「その他」として、終了者団体紹介Web版を作成。終了者団体紹介ガイドブックをA4判からA5判に変更し作成した。
- (4) 生涯学習推進事業：「学習情報の収集・発信」では、スマートフォン版生涯学習NAVIの利用促進に向けてタクシー車内のデジタル広告への掲載を行う。教育広報誌「まちだの教育」にオンライン学習の特集記事を掲載。「生涯学習ボランティアバンク」では直接のPR活動ができないため、保育園・幼稚園に対しては登録講師の情報をメールで発信した。「連携組織」では、さがまちコンソーシアム主催の「さがまちカレッジ」を4講座開催。さがまちコンソーシアムと連携して市内で地域連携活動をしている学生団体の交流イベント「ガクマチEXPO」をオンラインで動画配信を実施。他に「学習相談」を報告、
- (5) 施設貸出事業：生涯学習センターは緊急事態宣言発令等、コロナ対応による閉館、再開、利用時間・利用定員の制限等を実施し、感染拡大の防止を図った。11月までの利用件数は前年同比で51.5%、利用人数は38.0%に留まっている。小中学校の「特別教室開放」も学校の意向を踏まえて実施。

【委員質問・意見➡事務局回答】

- ・「まちだの学び」に市担当者の名前を入れたらどうか。➡他部署状況も調査して検討する。
- ・「まちチャレ」のオンライン講座への変更はどのようにやるのか。「まちだの福祉」の反省点で福祉の担い手を作る必要があると言われたが、担い手を作る必要があるのか疑問に思う。
- ➡「自分に素直にはたらくを考えよう！～子育てしながら、町田で暮らしながら、はたらく～」は、開催する市民団体からの申し出で講義をWebx上録画し配信する。受講生にURLを通知し、自分で1～2週間以内に受講することを考えている。現段階ではまだリアルタイムでやりとりできる講座はない。
- ➡「まちだの福祉」受講者には新しい発見をしてもらったという思いはあるが、担当として次のステップに繋がたく書いた。
- ・環境講座では町田の自然を楽しみ理解するだけが目標ではなく、自然を維持する方を支えるという、積極的な市民活動で支えていく方を養成していくことも市民大学全体の目標に含まれる。その思いが全くなければ反省材料になる。

(2) 審議会答申・改革プランを踏まえた生涯学習センター事業の推進について

【会長】 検討スケジュールに従い、本日は「課題解決を支援する」について議論する。課題にも個人、地域、組織と色々あるが、センターが課題を解決するのではなく、支援するというので「生涯学習センターは具体的に何が出来るか」を広いテーマで考えたい。課題も多様化・複雑化している中で個人がどう生きたいか、学びたいかを優先して考える。育てにくいリーダーやコーディネーターの育て方について意見がほしい。地域での課題解決について紹介してほしい。他の機関も地域で活動する団体の養成・組織化を行っているが、生涯学習センターはそれを巡回させることがテーマとして与えられている。学びからこれらの人たちを共通に結びつける方法が見えてこないか。

- ・学校の地域人材の活動の場には、授業や放課後の支援に多くの方が入っている。市内小学校42校、中学校20校には各校にボランティアコーディネーターが配置され地域と学校を結んでいる。本校は地域活動が盛んでうまくまわり、来年度からコミュニティスクールも始まるがこのメンバーでやっていけると思う。しかし他校について、高齢化による団地は人材不足があり、世代交代がうまくできていない学校もある。以前、生涯学習センターで学んだ方が活動できると紹介されたが、昔遊びに依頼が殺到し、ニーズはあるのに来てもらえないということがあった。また、公民館の少人数には教えているが、学校教育の中でクラスに教えることが可能かどうか、子どもたちのいい学びになるかは責任とれないと言われたこともあり、学ばれた方たちももっとスキルアップしていかないと現場で活動できないという話もあった

【会長】 審議会で校長先生から、「学校の教育現場で教師だけでは子どもたちの教育が賄いきれないため、生涯学習センターにいる多様な人材が学校現場に入ってくる仕組みができないか」という提案を受けた。ボランティアコーディネーターの委員の方からも、「専門性を持つ方に来ていただいても、子どもたちの状況をお互いに伝えきれず、とても良いことを子どもたちに伝えきれないという難しさもある」という話があった。子どもを育てることに生涯学習センターがどう関わられるかということに対して意見を。

- ・きしゃポッポの参加者の中でかなりの人が自主的活動を始め、10年ぐらいたつと地域のリーダーになっている。生涯学習センターが今までやってきたことは間違っていない。それが、更にと言う形で繋がりにくくなっているのは、社会状況の変化、女性が働くのはあたりまえになってきたことが大きな違い。社会的、地域的なゆるみがなくなった。全て張りつめていることが問題。地域、子どもたちの取り巻く環境に関心をもってもらう方を一人でも多く増やしていくことが良い。コロナ禍において、冒険遊び場には週に何校も来た。まさしく、これがサイクルができたことだと思う。
- ・地域でどんど焼きや川清掃などやってきたことを教えることなのかと理解した。
- ・子どもたちと遊ぶ機会を作り、センターが遊ぶ人を募集すれば良い。
- ・地域に格差が出ているということだが、そこにセンターで何かできないか。例えばボランティアバンクの活用で繋げていきたいと考えた場合、年配の方たちは子どもたちに何か教えてあげたい、してあげたいという気持ちが強い。センターはこうした方たちに子どもへの接し方をレクチャしたあと学校へ出向くという仕組みができると良い。
- ・地域で子どもを育てていくのに学校の先生たちはどう動こうとしているのか。➡次回コミュニティスクールの資料を用意する。

- ・町内会自治会にはそういった人材がいるのではないか。

【会長】課題解決を支援する人材が育成されたときに、それを地域に繋げていくコーディネーター役やリーダー役を生涯学習センターが作り上げていくことができるか、どうやったら作れるか議論したい。

- ・自治会が主催し何かすれば、関心持たれる方も多く、小さく発信できるのですごく良いことだと思う。関心あれば発展するが、ボランティアには限界がない。
- ・生涯学習センターがコーディネーターをどう作るか直接発想すると、とてもつまらないハウツー講座を考えがちになる。課題も地域課題だけではない。生涯学習センターで、講座や仲間の中だけで行うのではない一歩前に入る学習が実践としてできているか、相当専門的力がないとできない。

【会長】一方で自らの人生を豊かにするための学びとのバランスをどう考えるか。

- ・対象者を障がい者や高齢者などに限定して行い、サポーターも募集し全体の参加者を増やす。
- ・推進役を地域から選び出すことが重要。プログラムは専門家に任せる。3水スマイルが良い例なので地域でマネができれば良い。自治会長などその地域で信頼できる方がいないとだめ。
- ・各地域に担当者がいる、地域を良く知っている社会福祉協議会とリンクしてやっていけないか。

【会長】学びが巡回する仕組みという表現をしているが、学習センターの講座を受けた方が他にも繋がっていく仕組みもレポートしていただきたい。

- ・ママたちの自主学習グループへ部屋の無料貸し出し支援などはできないか。学習結果の発表の機会や発信・発展を支え活動を継続させる。➡現在講座終了後サークルを立ち上げる際、3か月くらいは職員が入り、部屋も無料でフォローしている。また、状況によっては主催事業として取り込み、1年間部屋の無料貸し出しを行い、その講座の運営補助や発表を条件としている。
- ・フィールドワークや課題解決の進め方の講座を行ってもいいのではないか。

【副会長】今、事業評価をしていると思うが、まちチャレなどで、センターが把握していない課題解決・地域課題を学習の場に設定する機会でもあるので、センターが持つ今ある制度の捉えなおしも含めて次回議論できれば良い。

3 その他

次回は2月26日午後2時から4時 ホールで開催

【副会長】私の地元は公民館が閉館しているので、町田市は工夫して講座等を継続しているため前向きだと感じている。次回も引き続き下半期の事業報告があるので、それを聞きながら「課題解決を支援する」の議論をしたい。